



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No.26 2005.2.16(No.2353)

第2560地区ガバナー / 横山 芳郎
会 長 / 渡邊 喜彦
会長エレクト / 小越 憲泰(クラブ奉仕A)
副 会 長 / 渡辺 勝利(クラブ奉仕B)
幹 事 / 五十嵐 寿一
S A A / 船越 正夫
会 計 / 荻根澤 隆雄

例会日 / 毎週水曜日 12:30 ~
例会場及び事務局 /
三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
例会場 / TEL 34-3311
事務局 / TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-ss@web-niigata.ne.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(~はshiftを押しながらかへ”のキーを
押ししてください)

本日の出席会員数: 68名中43名
先々週出席率: 83.08%

【ヴィジター】

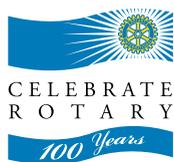
三條北より 山上茂夫さん

【ゲスト】

2003~2004年度ロータリー財団奨学生
田中真由美さん

【先週のメイクアップ】

- [2.13] 米山奨学セミナーへ
・会田二郎さん
- [2.15] 三條北RCへ
・渋谷正一さん、加藤紋次郎さん



「ロータリーを祝おう 100年の歩み」
2004~2005年度国際ロータリーのテーマ



白佗助椿

会長エレクト挨拶

小越憲泰会長エレクト

みなさん今日は。今日は卓話をいただきます元ロータリー財団奨学生の田中真由美さん、また、北ロータリークラブより山上茂夫さん、ようこそいらっしやいました。ごゆっくりお過ごし下さい。



先日の日曜日の夕方のテレビで報道特報という番組で、ボランティアのNPOの名前を使った募金活動の状況が放映されました。その内容は実態のない非営利組織

NPOの名前を使ってアルバイトの人間を集め募金活動をしているのです。日本国内には約20万人いると言われている難病の人達の救済と言う名目の下で募金活動を行いお金を集めながら、その集められたお金は一切NPOに渡っていないと言っております。

この事は人の善意を踏みにじる全く悪意の詐欺行為であります。

先日、出張のおり、友人と御茶ノ水の駅で待ち合わせました。駅前で中越地震復興支援の募金活動をしておりました。先に着いていた私は募金に協力しました。直ぐに友人が来ましたが、彼はいたって当たり前のように募金箱にお金を入れました。すると、募金活動をしていた若者達が一斉に「何時も有り難う御座います」と言いました。私の時はただ「有り難う御座いました」であったのに、友人の時は「何時も」の言葉があるのです。その事を友人に聞きました。彼も三條の出身ですので、この災害の手伝いをしなければと思っていた所、毎日のように通る御茶ノ水の駅前で中越地震の為の募金活動を若者達が始めたのをみて、それから毎日募金箱に千円札を入れ続けているのだと言っております。又、若者達もお茶の水の付近の大学に通っている学生が中心になっている様で、皆、強制的でなく自分達の時間を調整し合って活動しているのだと聞かせてくれました。この様に全く善意の気持ちだけで行われ

ているNPO活動が、一部の詐欺紛いの行為の為にこれからは、歪められて見られる事もあるのではないかと危惧されてなりません。

然し、私は人間の本来持っている強い生命力と、人と人との繋がり素晴らしさを信じたいと思いを直しました。

テレビを見ながら友人のさりげない行為と、若者達の活動の素晴らしさを再確認した事を申し上げて会長代理の挨拶とさせていただきます。

幹事報告

五十嵐寿一幹事

三条市教育委員会より

7・13水害による小・中学校・幼稚園の復興のための寄付のお礼状がとどいております。

地区ローターアクトクラブより

第35回ローターアクト地区大会のご案内がとどいております。

とき 4月23日(土)～24日(日)

ところ 白根市サルナート吉運堂

ローターアクトクラブ委員長さんにご出席

ニコニコBOX

小越憲泰さん

今日2回目の会長代理挨拶です。

卓話をさせていただき田中真由美さん、ありがとうございます。

藤田説量さん

祝100周年を欠席しましたので。

西山徳厚さん

当ビップさんの2階に、私、西山の作品が3点飾ってあります。見て下さい。

佐藤 武さん

降雪の山を越えたと思いき喜んでおります。糠喜びになりませんように。

五十嵐力さん

先日、新潟の万代島に出来た39階建の日航ホテルに泊まって来ました。近代的設備、パソコンを使用しても無料など、国際ホテルなみです。

佐藤勝榮さん

田中真由美さん、昨年は英国ウォーリック大学への留学ご苦労様でした。今日のお話楽しみにしています。

荻根澤隆雄さん

田中真由美さん、今日のご苦労様です。英国での留学、大変お疲れ様でした。

会田二郎さん、五十嵐昭一さん、清水良一さん、山田富義さん、杉山幸英さん、船越正夫さん、樺山 仁さん

田中真由美さん、卓話ご苦労様です。楽しみにしております。

会田さん、荻根澤さん、小越さん、川瀬さん、

菊池さん、小出さん、杉山さん、高森さん、

中村さん、成田さん、船越さん、丸山さん、山田さん、

若槻さん、石塚さん、明田川さん

先日死ぬ気で生ガキと高級シャブリワインを楽しむ会を行いました。全員、体調を崩すことなく、ホッとしました。。

2月16日分 ￥ 32,000

今年度累計 ￥ 697,000

卓話

2003～2004年度ロータリー財団奨学生 田中真由美さん



2003～2004年ロータリー国際親善奨学生の田中です。今日は私が経験した異文化交流に関してお話ししたいと思います。

私はイギリスのウォーリック大学の大学院で英語教育を学んできましたが、その大学に決めたのにはいくつか理由があります。まず、英語教育を専門に教える大きな機

関があり、そこには日本の英語教育に精通している教員がいたことが大きな理由の一つです。そしてもう一つは、ウォーリック大学が留学生を多く受け入れている大学であったことです。イギリス人ばかりでなく、他の国々からの学生が多くいれば、それだけ様々な文化やものの考え方に触れることができると思いましたし、自分自身と同じ境遇である留学生と助け合うことができるとも思いました。実際、イギリスに滞在中、多くの異文化に関する経験をし、そして、留学生と励まし合い、助け合いながら、外国生活を乗り切ることができました。

イギリスの大学院生は、一年間に多くの授業と課題、指導教官との面接、最後に論文執筆と、勉強で大変忙しい生活を送っているのですが、やはり私も例外ではありませんでした。外国での慣れない生活や言葉の違い等も加わって、最初の数ヶ月は本当に精神的な余裕がなく、また日本にいる家族や友人が恋しくて、淋しい思いもしました。しかし、友達と励まし合ったり、愚痴を言い合ったりすることで、だいたい心に余裕を持てるようになりました。特に、寮の友達の存在は大きいものでした。私は大学の敷地にある学生寮に住んでいましたが、その寮は大学院生用で、しかも、寮を共有していたのは女性だけでしたので、それぞれが持っている悩みも似ていたことから、ざっくばらんに話し合うことができました。驚かれるかもしれませんが、イギリスの大学寮は男女共同生

活で、それぞれ個人部屋はありますが、台所などは共同で使用します。しかし、私が住んでいた寮は女性専用でしたので、静かに、そして清潔に共同スペースを使用でき、大きな問題もなく、気楽に生活できました。私が共に生活していた、寮の友達は、5人いまして、インド人、ポーランド人、モロッコ人、中国人が二人でした。そのうちの、モロッコ人と中国人のうちの一人は、私と同じ大学院の生徒でしたので、同じ勉強のことについても話し合うことができました。また、私たちはよく台所に集まっていたので、それぞれが作る料理のことについてもよく話しました。出身地の違いから、作る料理もその国ならではのもので、作り方を教えあったり、味見をしあったりしました。インド人の友達は何種類もの香辛料をインドから持ってきていて、驚いたことに、大きな圧力鍋も国から持参していました。圧力鍋はインドではどの家庭でも日常的に使っているようで、使い慣れたものをわざわざ持ってきたそうです。中国人はよく中華料理用の食材を探してきて、時間をかけて作り、作ったものを大勢で食べていました。大掛かりな料理をすると、それだけ材料や使用する料理道具も増え、後始末を綺麗にしなければ、他人に迷惑をかけることになります。私の寮ではそういうことは殆どありませんでしたが、他の寮に住む友達から、「～人は台所の使い方が汚い」だとか、「～人はひどい匂いの料理をつくる」といった愚痴を聞くことができました。異なる文化圏出身の人々が集まる場所では、互いの違いを楽しむことができるのですが、なにか気に入らないことがあった時、個人レベルの問題を、ある文化圏特有の問題として一般化する傾向があります。共同生活において、とりわけ食べ物の匂いや味、衛生観念の違いなどは大きな問題です。大学の入学手続きの際、寮を選ぶときに「生活習慣が違うので～人がいないところがいい」と大学に言って特定の国出身の学生と住まない人もいと友達から聞いたときはショックを受けました。文化的な違いに興味がなく、落ち着いて勉強だけしたい人もいるのだと思う一方で、ひょっとしたら、日本人も何かの理由で他の国の学生から偏見を持たれ、避けられているのではないかと思うと悲しくなりました。様々な目的を持って大学で勉強をする人がいますが、私は日本では知り合う機会があまりない国から来た学生と共に住むことができ、勉強だけでは得られない素晴らしい経験をする事ができたことを大変嬉しく思います。

私の場合、寮生活において互いの文化を理解し、尊重するということがそれほど難しいことではなかったのは、寮の友達が寛容で、異文化に興味を持っていたからだだと思います。しかし、もちろん周囲の人が全てこのように、異文化を尊重する姿勢を持ち合わせているわけではありません。私自身、イギリスに着いたばかりの頃は他の留学生の異なるものの考え方に反発心を抱いたこともありました。新学期が10月に始まる前の5週間、私は留学生のための、事前英語コースを受講していました。英語の特訓だけ

でなく、イギリスの大学での授業の受け方などを学べるコースでしたので、多くの留学生がこのコースを受けていました。その5週間で知り合った学生のうちの一人、彼はトルコ人でしたが、話をしている時、突然彼に「日本人は鯨を捕って食べるから恥じるべきだ」と言われ、その言い方にかっとした私は、つい、「日本を発つ前の送別会の席で、鯨が出てきたから食べた」と言い返したところ、大変な口論となってしまいました。お互い異なる倫理観を持ち、自国の文化を誇りに思っていたため、話し合っても全く話がかみ合わず、結局言いたいことをお互いに言って終わってしまいました。その口論の後、大変不愉快な気持ちになりましたが、異なる倫理観、宗教観や価値観を受け入れることは大変難しいけれど、まず違いを理解することが大切で、その違いによって他者を評価してはならないのだと実感しました。この経験は不愉快なものでしたが、このことがあってからは、困惑するような文化的な違いに出会っても、嫌な顔をしたり、避けたりするのではなく、質問したり、観察したりすることで、むしろ積極的に違いを理解する姿勢をもつことができました。

私には、このように、大学院や寮で知り合った、異なる文化を持つ留学生の友達が多くいましたが、イギリス人との交流は大学ではあまりありませんでした。もちろん、大学生の殆どはイギリス人でしたが、私の大学院の生徒は9割が留学生で、イギリス人の学生と交流する機会はあまり持てませんでした。しかし、私はロータリーの留学生として、地元のロータリアンと会う機会が多くありましたので、その交流からイギリスについて多くのことを学ぶことができました。とりわけ、私のホストカウンセラー夫妻との交流から、イギリスの家庭の雰囲気を感じることができました。私のカウンセラーのレックスは、高校の校長で、奥様のマリオンは小学校で音楽を教えています。私が将来英語教師になりたいと言いましたら、マリオンは私を小学校に案内し、授業の様子を見せてくださり、レックスは高校の演劇部によるロミオとジュリエットの公演に招待してくださいました。カウンセラー夫妻はまた、クリスマスや年末年始にも自宅に招待して下さり、家族と離れている私が淋しい思いをしているのではないかと気遣ってくださいました。日本人にとってクリスマスは家族と過ごす人もいれば、友達と集まって楽しく過ごす人もいて、25日でも街は騒がしいのですが、イギリスでは25日になると、街中の店という店は閉まり、殆ど誰も表に出ている人がいないことには大変驚くと共に、イギリスではクリスマスがいかに重要な日であるかということを実感しました。また、日本では12月25日が終わると、すぐにクリスマスの雰囲気は消え、年末年始への準備に入りますが、イギリスでは25日が過ぎ、一月に入ってもしばらくの間はクリスマス・ツリーを飾っていることは、新しい発見でした。カウンセラー夫妻がこのように親善奨学生でなければなかなか経験できないようなことに触れる機会を与えてくださったことに、今でも大変感謝

しています。

留学期間中はロータリーの行事にも積極的に参加し、親善奨学生として充実した日々を送ることができました。多くの地方クラブを訪問し、三条の文化や、私が学んでいる英語教育の話など、様々な事柄についてスピーチを行いました。三条の文化については、金物産業や本成寺の鬼踊りについて、写真を使いながらスピーチしました。また、クラブを訪問するときはいつも着物を着ました。日本を発つ3ヶ月前に着付けを習いに行ったのですが、日本にいる時は自分で着物を着て出かけたことは一度もありませんでした。ですから、初めてイギリスで着物を着るときは、上手に着られるかどうか不安で、スピーチの会場に行く3時間前から準備し、身支度に奮闘しました。帯が緩んでこないようにと、きつく帯を締めてしまったために、苦しくて、会場では料理を殆ど食べることができませんでした。しかし、着物はイギリスの方々大変喜んでいただき、特に女性は帯の巻き方や柄、足袋や草履に興味を持ったようでした。男性の方は、帯の後ろにつくった四角い太鼓の部分を、リュックサックとっていて、その中に何が入っているのかと聞かれることもありました。スピーチの他に、生け花を披露したこともありました。生け花は日本にいた間一年ほど公民館でならいましたが、やはり、着物と同じように練習しかしたことがなく、人前で生けたときは大変緊張しました。はさみと剣山、生け花の歴史を説明しながら生けたので、上手に出来上がるか心配でしたが、なんとか美しい日本の文化を紹介できたのではないかと思います。このような多くのスピーチ等によって、日本の文化をいくつかを紹介し、またロータリアンとの交流からイギリスの文化に接することができ、親善奨学生の任務の殆どを果たすことができましたが、何よりも、国際親善奨学生たちと取り組み、三条ロータリークラブの皆様にも協力していただいた募金活動によって、さらなる国際貢献をすることができました。私個人の募金活動以外にも、他の奨学生と共に、1060地区のロータリークラブで募金活動を行いました。私を含めた日本人の奨学生が3人、韓国人、台湾人、ルーマニア人の6人で、それぞれの国の文化をデモンストレーションしたり、バザーに出す品物を持ち寄ったりしました。私は生け花を披露したり、見てくださったイギリス人の方々に花を生けてもらったりすることで、日本の文化を体験してもらいました。また、他の日本人の奨学生は折り紙の折り方を教えました。韓国人の奨学生は韓国のお酒や料理をふるまい、台湾からの奨学生は台湾のお茶を点てました。そして、ルーマニアからの奨学生、彼がこの募金活動を立ち上げた本人ですが、彼は募金活動の趣旨を説明しました。このイベントに集まった30名くらいの方々は、募金活動を理解してくださり、募金のために持ち寄った品を買ってくださいました。私は日本を発つ前にたくさんの日本や三条市に関する物、例えば風のミニチュアや本成寺のポストカード、折り紙などを集め、イギリスに持ってきていたので、それらをバザーに出

品しました。募金活動を通じて、国際貢献することができただけでなく、自国の文化を紹介したり、異なる文化を体験したりする機会を持つことができ、世界を理解するということが、他の国に関する知識を吸収することだけでなく、こちらからも情報を発信する、相互的なものだということを実感することができました。来年度から、高校の英語教員として、新潟県の英語教育に貢献することができることになりましたので、是非、イギリスの大学院で学んだ英語教授法や、ロータリーの活動や友人との交流から得られた異文化理解、国際協力の経験を、職場で活かし、生徒が英語を学ぶことを通して、日本と外国の文化を公平な目で見ることができ、そして、助け合いの精神を養えるような教育を行いたいと思います。

最後になりますが、一年未満の短い滞在で、世界を理解することももちろんできませんでしたが、異文化や互いに助け合うことの大切さを私なりに理解できたことは、今後自分自身と世界とのつながりを考える上で重要な出発点であったと思います。また、ロータリー国際親善奨学生として、私個人が世界にできたことは決して大きなものではありませんでしたが、他の奨学生、スポンサークラブ、ホストクラブ、そしてその他のイギリスの人々と協力して募金活動を行えたことは、ロータリーの精神を共に実行できたという点で、大変意義深いことであったことは間違いありません。親善奨学生でなければこのような貴重な経験をするのは難しかったのではないのでしょうか。素晴らしい機会を与えてくださったロータリーの皆様に改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。

ロータリー助団奨学生 田中真由美さんへの質問

質問 山田会員

向こうに行って男性の友達が出来ましたか？

答 田中真由美さん

最初は向こうのお友達出来るかなとも考えて期待していたのですが、大学院の勉強が忙しく、ロータリーの活動も沢山ありましたし、友達と遊べることもほとんど出来ませんでした。夏休みや冬休み、春休みの長期休みになりますと一緒に旅行に行ったことは有りましたが、その学期の間は忙しくて男性の友達を作る時間はありませんでした。

質問 山田会員

教員としての希望はありますか？

答 田中真由美さん

春から英語の教員として内定を頂いておりますが、実際どちらの高校で働くのか決定しておりませんが、最初の1、2年は新人として学ぶことが沢山あると思います。今の私の目標としては、新潟県の英語教育に、どのように自分が貢献できるかと考えてみたところ、生徒全体の学力をアップさせること、そして、もう1つはもっと大きな夢ですが、将来的に英語教員の教育が出来たらと希望しております。

質問ではありませんが

小越会長エレクト

貴女のように長期入学もあり、短期入学の方もありますが、どうぞ、高校生にこの話をもう1回聞かせて頂きまして、ぜひ高校生が短期入学にも行けるように面白く説明して聞かせてやって下さい。

田中真由美さん

ハイ、わかりました。

質問 小柳会員

和製英語で外国へ行くと通用しなかった話を聞くのですが、どうでしょうか？

田中真由美さん

一応行く前に和製英語で失敗ないように種々な本を読んで行き、大きな失敗はありませんでしたが、ゼスチャーの仕方、日本人は否定の質問も肯定の質問も聞かれた時にうなづく癖があり、何度もうなづくって答えるものですから、「これって美味しくないよネー」と聞かれたときに、「ウン美味しくないよネ」と首を縦に振りながら答えるものですから、「美味しい」というふうにとられてしまって、なんでノーと言っているのに首を縦に振るのかと言われた事がありますので、日本では良くそういうふうになんて言えるんです、と説明した事がありました。

ありがとうございました。

3月の 行事予定

 三條ロータリークラブ例会日

日	月	火	水	木	金	土
		1 三條北RC クラブ・フォーラム	2  三條RC 卓話 渡辺勝利会員	3	4	5
6	7 三條南RC クラブ休会	8 三條北RC 会員卓話予定	9  三條RC 卓話 永井敏行会員	10	11	12
13	14 三條南RC 卓話 荒澤威彦会員	15 三條北RC 夜例会 会員卓話予定	16  三條RC クラブ休会	17	18	19
20 春分の日	21 三條南RC 休会	22 三條北RC 会員卓話予定	23  三條RC 卓話 若槻八十彦会員	24	25	26
27 会長エレクト研修 セミナー 10:00～18:15 於:ホテルオークラ	28 三條南RC 卓話 大原義弘会員	29 三條北RC エレクト 研修報告会	30 三條RC 会員卓話予定	31		

近隣RC例会変更のお知らせ
 吉田RC 3月18日(金)夜例会
 燕RC 3月31日(木)クラブ休会

次週例会 3月2日 会員卓話 渡辺勝利会員

次々週例会 3月9日 会員卓話 永井敏行会員

